

歯科医学総合講義

[講義] 第4学年 前後期 必修 11単位

《履修上の留意事項》 「歯学教育モデル・コア・カリキュラム 教育内容ガイドライン 平成28年度改訂版」に記載されているように、*印が表示されている到達目標は臨床実習開始前までに習得すべき知識・技能・態度等のレベルの内容を示している。すでに配付されているコア・カリを熟読し、到達目標を理解したうえで授業に臨むよう心がけること。

《担当者名》 責任者：教務部長
一般基礎科目、専門基礎科目及び専門臨床科目を担当する教員

【概要】

医療人としての経験の第一歩となる臨床実習に臨むに当たり、基本的な知識を整理し、技能の向上及び患者とのコミュニケーション、知識の具現化を図る。

【学修目標】

歯学研究・歯科医療分野の動向と社会のニーズ等を踏まえた、学部段階での歯学教育における必要最小限の共通的な「歯学教育モデル・コア・カリキュラム 教育内容ガイドライン 平成28年度改訂版」に即した基本的知識について説明でき、また、技能と態度が実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	A 基本事項	以下の「歯学教育モデル・コア・カリキュラム教育内容ガイドライン（平成22年度改訂版）」の項目で、*印の付された到達目標について実施できる。 A-1 患者の尊厳 A-2 医の倫理 A-3 歯科医師の責務 A-4 インフォームドコンセント A-5 歯科医療における安全性への配慮と危機管理 A-5-1) 安全性の確保 A-5-2) 医療上の事故等への対処と予防 A-5-3) 医療従事者の健康と安全 A-6 生涯学習 A-6-1) 生涯学習への準備 A-6-2) 研究マインドの涵養 A-7 対人関係能力 A-7-1) ミュニケーション A-7-2) 医療面接 A-7-3) 患者中心のチーム医療	別紙時間割に掲載の担当者
2	B 社会と歯学	B-1 健康の概念 B-2 健康と社会、環境 B-2-1) 歯科医師法・関係法規 B-2-2) 保健・医療・福祉制度 B-2-3) 歯科による個人識別 B-2-4) 環境と健康 B-3 予防と健康管理 B-3-1) 予防の概念 B-3-2) 口腔疾患の予防と健康管理 B-4 疫学・保健医療統計 B-4-1) 口腔疾患の疫学 B-4-2) 保健医療統計 B-4-3) 健医療情報	別紙時間割に掲載の担当者
3	C 生命科学	C-1 生命の分子的基盤 C-1-1) 生命を構成する基本物質 C-1-2) 遺伝子と遺伝 C-1-3) 細胞の構造と機能 C-1-4) 細胞のコミュニケーション C-2 人体の構造と機能 C-2-1) 身体の部位と方向用語	別紙時間割に掲載の担当者

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		C-2-2) 個体発生、器官発生 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染 C-3-2) 免疫 C-4 病因と病態 C-4-1) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮 C-4-2) 修復と再生 C-4-3) 循環障害 C-4-4) 炎症 C-4-5) 腫瘍 C-4-6) 疼痛 C-5 生体と薬物 C-5-1) 薬物と医薬品 C-5-2) 薬理作用 C-5-3) 薬物の適用と体内動態 C-5-4) 薬物の副作用と有害作用	
4	D 歯科生体材料と 歯科材料・器械	D-1 素材と器械・器具の所要性質 D-2 成形法と成形用材料	別紙時間割に 掲載の担当者
5	E 臨床歯学教育	E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 E-1-2) 画像検査 E-1-3) 歯科麻酔の基本 E-1-4) 手術の基本手技 E-1-5) 急処置 E-1-6) 口腔保健 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 E-2-2) 口唇・口腔の基本構造と機能 E-2-3) 蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育及び加齢と その異常 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生及び構造と機能 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 E-4-2) 小児の歯科治療 E-4-3) 高齢者の歯科治療 E-4-4) 害者の歯科治療 E-4-5) 因性疾患 E-4-6) 科医師に必要な医学的知識	別紙時間割に 掲載の担当者

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（CBT、OSCE）100%

【教科書】

歯学教育モデル・コア・カリキュラム - 教育内容ガイドライン - 平成28年度改訂版

【備考】

各授業における配付プリント類

解剖学 講義資料

「口腔解剖学 コア・テキスト」（解剖学分野 編集）

【学修の準備】

予習として、時間割に沿って、上記【学習内容】の項目について予習しておく。(80分)

復習として、理解できていない講義項目を明確にし、知識を整理し確実なものにしておく。(80分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。

(専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力)

DP2. 「総合的に患者・生活者を支える歯科医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている。

(総合的に患者・生活者をみる姿勢、プロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力)

DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。

(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

DP4. 多職種(保健、医療、福祉、介護)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践できる能力を身につけている。

(多職種連携能力)

DP5. 歯科医療の専門家として、経済的な観点・地域特性を捉えた視点・国際的な視野を持ちながら活躍できる能力を身につけている。

(社会における医療の役割の理解)

【実務経験】

一般基礎科目、専門基礎科目及び専門臨床科目を担当する教員を参照(別途、配付する時間割を参照)

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験を活かし、幅広い歯科医療の展開の基盤となる基礎歯科医学を学修し、目指すべき歯科医師像の構築に寄与する教育を行っている。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している